

## 特別展「2016年の自然遊学館の出来事」

場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

期間：2017年3月1日～4月9日

### 2016年の自然遊学館の出来事展を開催するに 当たって

二色海浜緑地公園にスナメリの死体が漂着し、「処理をどうしようか？」とひと騒動になった2016年1月7日。

その後、「剥製にしよう！」という話が進み、漂着から13か月を経過して2017年2月8日にスナメリ剥製が納品されました。

「近畿一円スナメリ剥製を保管しているのは当館だけ！」と大きな声で自慢できる、そんな遊学館が、特別展『2016年自然遊学館の出来事』を開催いたします。

### 自然遊学館の事業3本柱

#### 1. 観察・調査活動事業

開館当時から続けている貝塚市全体の自然の観察・調査を『遊学館だより』や『貝塚の自然』で皆様にお届けしています。また、近木川自然再生事業、『二級河川近木川汽水ワンド』の観察・調査を大阪府より委託を受けて行い、今年度が最終年度になります。

#### 2. 展示・普及活動事業

館内の展示や年間活動行事を行い、貝塚の自然の普及活動を行っています。他にも、出前授業や観察会への講師派遣、各学校からの団体見学や職場体験の受け入れを行い普及に努めています。これとは別に『海の学びミュージアムサポート事業』として、日本財団からの支援で海の環境について調べ・考える事業を行っています。

#### 3. 維持・管理事業

来館された皆様がゆっくり見学していただけるよう、館内外の維持・管理を行っています。遊学館には来館していただいた皆様が、自然に親しみ、自然を大切に作る心を育てる仕掛けがたくさん

### 特別展「2016年の自然遊学館の出来事」

～ 1年の始まりはスナメリの漂着からでした ～



場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

期間：2017年3月1日(水)～4月9日(日)

貝塚市二色丁目26-1 水鉄バス「市民の森」バス停下車徒歩1分  
Tel. 072-431-8457 火曜日は休館日です。ご注意ください。

あります。これからも遊学館は、貝塚の自然情報を市民の皆様を提供することを使命とし、市民の皆様への環境教育の場として、自然を楽しむ館として頑張っております。応援よろしくお願いたします。どうぞ、2016年の出来事展をお楽しみください。

最後に『2016年の自然遊学館の出来事』特別展開催に際し、多くの皆様にご協力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

2017年3月  
貝塚市立自然遊学館  
館長 高橋 寛幸

## 展示会場の様子



## 展示項目

### 1. 写真と解説文

2016年1月から12月までの主な出来事（生きものの記録と行事）の写真と解説  
次のページ以降に、生きものの記録と解説文を掲載しました。

### 2. スライドショー

A3で印刷したものも含めて100枚の動植物の写真を大型モニターにおいて、日付順で20秒ごとに入れ替わるように提示しました（以下に、写真のリストを掲載しました）。

### 3. スナメリ剥製

2016年1月7日、二色海浜緑地公園の海岸に打ち上げられたスナメリの死体を剥製（と骨標本）にしました。

### 4. 標本

2016年に採集された標本や寄贈標本を展示しました。

### 5. 寄贈作品

ビーズすなめり（鈴子佐幸さん作製）、二色の浜からの恵み（打ち上げ貝などを材料にした丸山幸代さんの作品）、ゼンタングル作品（青木泰彦さん作製）などを展示しました。

### 6. 汽水ワンド調査の結果

岸和田土木事務所からの委託で2012年度から5年間、近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）において経過観察を行ってきました。その調査のまとめを展示しました。

## 7. ぬり絵コーナー

自然遊学館のスタッフが貝塚市内で撮影した生きものの画像を素にして、「遊学館ぬり絵」を作製し、会場の一角で楽しんでもらいました。

### 1. 写真と解説文

以下で紹介する出来事と写真は、すべて貝塚市内で撮影されたものです。それぞれの出来事について、タイトル、撮影日、撮影場所、1行コメント、分類群（目と科）、解説文、写真、写真提供者を示しました。撮影者名がない写真は自然遊学館の職員が撮影したものです。

---

#### コガモ・・・2016年1月2日、近木川河口

別れの予感？

カモ目 カモ科

ではなくて、たまたま別の方向を向いている雌雄です。左がメスで、右がオスです。カモ類の中でも体サイズが最小クラスで、この時期に近木川河口にいるホシハジロ、ヒドリガモ、カルガモ、オナガガモなどと比べると、小ささが分かります。植物食で、水面から届く所に生えた水草を食べます。オスの鳴き声は笛を吹くような感じで、やや人工的な感じがしないでもありません。



コガモ

---

#### スナメリ・・・2016年1月7日、貝塚人工島

イワシを追って迷い込んだ？

クジラ目 ネズミイルカ科

貝塚人工島に死体が打ち上げられました。その数日前にカタチイワシの群れが海岸に集まっていたので、それを追って迷い込んだのかもしれませんが。全長約 165cm、体重 47.5 kgでした。ほとんど外傷がない状態だったので、剥製にしようということになりました。現在、この多目的室で展示しているのが、その時のスナメリです。



スナメリ打ち上げ

---

**シロチドリ**・・・2016年2月5日、二色の浜

夏鳥？留鳥？

チドリ目 チドリ科

右が冬羽のシロチドリです。冬の二色の浜を6、7羽で走り回っていました。砂浜では、昆虫を含む節足動物を餌としているのでしょうか。本州では夏だけ飛来する地域もあるようですが、ここでは留鳥です。大阪府レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。左は同じ群れに1匹だけいたイソシギです。こちらは準絶滅危惧です。



シロチドリ

---

**ユキワリイチゲ**・・・2016年2月18日、蕎原

雪割一花と書きます

キンポウゲ目 キンポウゲ科

近木川上流の川沿いの林床に群落を形成し、春先に白い花を咲かせます。葉（小葉）はひし形で、裏面が紫色ががっているのが特徴です。葉は地面を這うように、花を咲かせる茎はそこから立ち上がってという様子は、いろいろ例えようがありそうです。大阪府レッドリストでは準絶滅危惧に指定されています。霞の中でも目立っていました。



ユキワリイチゲ

---

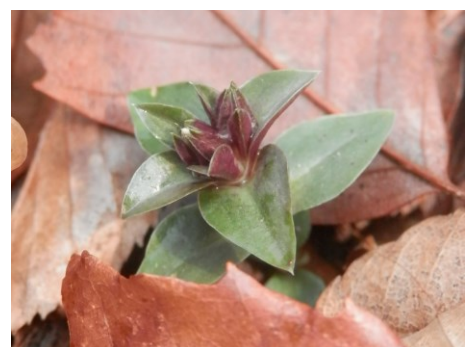
**フデリンドウ**・・・2016年2月28日

和泉葛城山登山道 A コース

花には出会えず

リンドウ目 リンドウ科

この年は、覚野良子さんから、自然遊学館がこれまで貝塚市内で記録していなかった植物を20種以上教えてもらいました。フデリンドウもその中の1種です。山地に生える草で、写真は花が咲く前の様子です。3月末には蕾がかなり大きくなり、5月には花の時期が過ぎてしまった、と伺いました。花の時期に行っても、曇りや雨だと、花を閉じてしまうそうです。



フデリンドウ  
(覚野良子さん撮影)

---

**イシガケチョウ**・・・2016年3月8日、大川

大きな花かと思ったら

チョウ目 セセリチョウ科

陽光の下、ウメの花が咲いていて、春を感じながら目を凝らすと、イシガケチョウが逆さに止まっていました。冬を越した成虫です。分布を北に広げているチョウの1種で、30年前なら珍しかったのですが、大阪でも今ではふつうに見られるようになりました。幼虫は独特の形をしていて、イヌビワやイチジクの葉を食べます。



イシガケチョウ

---

**コスミレ**・・・2015年3月22日、千石荘

ツクシもいいけど、スミレもね

キントラノオ目 スミレ科

いかにも春先という感じの写真が撮れました。ツクシ（スギナ）の群落に囲まれるように、コスミレの群落がありました。スミレの仲間同定が難しいのですが、葉の形・葉裏の色・側弁の毛の有無・花卉のすじ模様・柱頭の形・距の長さなどで見分けます。コスミレの特徴を順番に書き出すと、長卵型・淡紫色・無毛・紫色の目立つすじ・カマキリ型・細長となります。



コスミレ

---

**ヤスマツアメンボ**・・・2016年4月26日、和泉葛城山

高標高記録の更新

カメムシ目 アメンボ科

山頂の駐車場脇に小さな水たまりが出来ていて、数匹のアメンボが水面を泳いでいました。写真はヤスマツアメンボのペアです。その他、ヒメアメンボやマメゲンゴロウもいました。他の水域から飛んできて、この水たまりにやって来たのでしょう。これまでの高標高での採集例はいずれの種も蕎原だったので、どの種も市内最高標高の記録を600mほど更新したことになります。



ヤスマツアメンボ

---

**ブナアオシャチホコ**・・・2016年4月26日、和泉葛城山  
昼間に会う

チョウ目 シャチホコガ科

ブナアオシャチホコの標本は、1999年から2001年にかけての山頂のライトトラップ（夜間採集）で採集されたものが3個体あるだけでした。今回は、山頂の小屋の窓枠に止まっていたものを採集しました。幼虫はブナとイヌブナの葉を食べ、年2世代・蛹越冬の生活史を送ります。ブナ林の衰退のため、大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されています。



ブナアオシャチホコ

---

**クワガタソウ**・・・2016年5月8日、和泉葛城山

果実の形が名前の由来

シソ目 オオバコ科（以前はゴマノハグサ科）

春に花が咲きます。果実の形が兜の鍬形に似ていることが和名の由来だそうです（別写真、8月21日）。道端に生えるオオイヌノフグリや湿地に生えるカワヂシャと同じ仲間です（*Veronica* 属）。大阪府レッドリストにおいて、自生地・個体数が極めて少ないという理由で、絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。（覚野良子さん撮影）



クワガタソウ  
（覚野良子さん撮影）

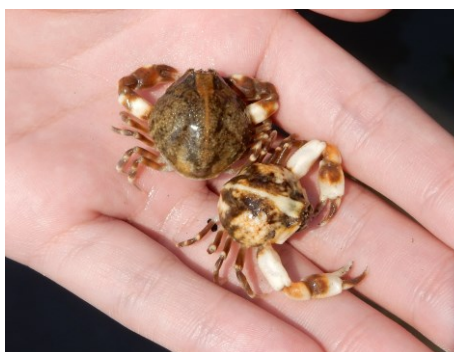
---

**マメコブシガニ**・・・2016年5月22日、近木川河口

前向きなカニ

十脚目 コブシガニ科

渚の生きもの行事で江本大地さんが採集したものです。甲羅が盛り上がって丸っこい形をしています。甲羅の様子は種内でいろいろなものがあります。カニらしからぬ特徴は、横歩きではなく、前に進むことです。大阪府レッドリストで準絶滅危惧に指定されていますが、近木川河口では増えているようです。



マメコブシガニ

---

### イナモリソウ・・・2016年6月18日、和泉葛城山

別名ヨツバハコベ

アカネ目 アカネ科

山地に生える草で、春に花が咲きます。ヨツバハコベという別名が示す通り、地面を這うように開く4枚の葉が目立ちます。これも自然遊学館に記録がなかった植物です(大阪府レッドリスト・準絶滅危惧)。三重県菰野の稲森山で最初に発見されたと書いてある図鑑もあります。(覚野良子さん撮影)



イナモリソウ  
(覚野良子さん撮影)

---

### ムラサキホコリ・・・2016年7月21日、千石荘

キノコの仲間でなかったら

ムラサキホコリ目 ムラサキホコリ科

千石荘の切通しに置かれただんじりの駒から生えていました。キノコの図鑑を見ても載っていない時は、次に変形菌(粘菌)ではないかと疑います。変形菌の図鑑に、ムラサキホコリ科のいくつかの種が載っていました(オオムラサキホコリかも)。変形菌は、動物のように動き回る変形体の時期と、キノコのように胞子を付けて動かない子実体の時期があります。



ムラサキホコリ

---

### ジャノメガザミ・・・2016年8月5日、二色の浜

南方系のワタリガニ

十脚目 ワタリガニ科

貝塚科学の日の自然遊学館の出し物の一つは地曳網です。その地曳網で採れました。ワタリガニの仲間なので、後脚が遊泳用に平たくなっています。甲羅に3個の点があるのが特徴です。温暖化の影響か、二色の浜でもだんだんと南方系の生きものが採れるようになってきました。東南アジアでは、多く漁獲されているそうです。



ジャノメガザミ

---

## ブナの立ち枯れ木・・・2016年8月23日、和泉葛城山

生きものたちもびっくり？

ブナ目 ブナ科

登山道Aコースの終点近く、神社の石段下から20メートルほどの場所にブナの立ち枯れ木がありました。根元には洞があって、倒れそうだとは思っていたのですが、9月15日に行った時には倒れて崖の下にずり落ちていました。ツキヨタケ、オニクワガタ、アズキガイなどの観察ポイントだったので、残念です。



ブナ立ち枯れ木  
(画像の中央左)

---

## ミヤマナミキ・・・2016年9月1日、和泉葛城山

タツナミソウの仲間です

シソ目 シソ科

山地の林内に生える草で、葉の粗い鋸歯が特徴です。花の筒の部分がないので、いわゆる「タツナミソウの仲間」とは花の様子が違います。でも、立浪草も浪来草も波を由来とする名前である点では同じですね。大阪府レッドリストにおいて、自生地・個体数が極めて少ないという理由で、準絶滅危惧に指定されています。(覚野良子さん撮影)



ミヤマナミキ  
(覚野良子さん撮影)

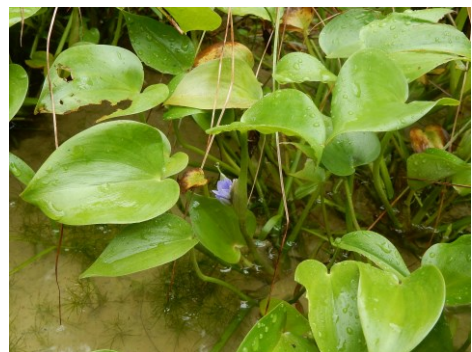
---

## コナギ・・・2016年9月5日、自然生態園「トンボの池」

どこから来たの？

ツユクサ目 ミズアオイ科

8月3日にトンボの池で初めて記録した植物です。主に水田などの生えるものだそうで、花が咲いていないと、水田植物のオモダカに似ています。日に日に株が増えて行き、9月5日に初めて1輪咲きました。昆虫は新しい種の移入がないのに、植物はタケトアゼナ(外来種)やチョウジタデなども新しく入ってきて、動きがある年になりました。



コナギ



---

**ミナミテナガエビ**・・・2016年9月24日、近木川下流

近木川初記録

十脚目 テナガエビ科

近木川初記録のエビです。アユ調べの行事の時に採集されたものです。これまでテナガエビとヒラテナガエビが確認されていましたが、3種目のテナガエビになりました。テナガエビよりも南方系のエビで、模様はとても似ていますが、テナガエビよりも指節（歩脚の先端の節）が太短いのが特徴です。



ミナミテナガエビ

---

**アケボノシュスラン**・・・2016年10月2日、和泉葛城山

春先から秋まで

ラン目 ラン科

山地に生える草で、秋に花が咲きます。一度聞くと忘れられない和名の中の「シュス」は、葉を、縺子織という一方向への網糸が目立つ織物に見立てて付けられた名前だそうです。これも自然遊学館に記録がなかった種で、春先から覚野良子さんに写真を寄贈していただき、10月に花を見せてもらいました。



アケボノシュスラン  
(覚野良子さん撮影)

---

**ヤブサメ**・・・2016年10月12日、自然遊学館前

大丈夫でした

スズメ目 ウグイス科

自然遊学館のドアの前でじっとしていました。近づくと水道栓の方に弱々しく飛び移りました。でも、またじっとしています。おそらく自然遊学館の自動ドアのガラスに衝突して、軽い脳震盪を起こしていたのだと思います。日本には夏季にやってくる夏鳥で、森や藪の中にいるので、あまり目にしない鳥です。2枚ほど写真を撮った後、無事に飛び立って行きました。



ヤブサメ

---

### ヒバカリ・・・2016年10月20日、蕎原

そんなに減っていたの？

ヘビ亜目 ナミヘビ科

小川に沿った細い道に積もった落葉の上にはいました。撮影用に館に持ち帰って調べると、大阪府レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されていることが分かりました。貝塚市にいるヘビの中で絶滅危惧のランクが一番高かったんですね。魚やカエルなどを好むので、餌やりは大変です。撮影後、出張講義で見てもらってから、同じ場所に逃がしに行きました。



ヒバカリ

---

### ヒラフスベ・・・2016年10月27日、水間公園

キノコの好物

ヒダナシタケ目 タコウキン科

何か大きなキノコはないかなと探していた時、ヤマモモの根元で見つけました。幅20cmは、この種としては最大級です。こんなに大きくても薄黄色は完全には成熟していない成長段階で、だんだんと色が茶褐色から暗褐色へと変わっていくそうです。このキノコ上で採集したカツオガタナガクチキという甲虫も、これまで自然遊学館に記録がないものでした。



ヒラフスベ

---

### スミウキゴリ・・・2016年11月6日、近木川下流

これも近木川初記録

スズキ目 ハゼ科

近木川で初記録の魚です。近木川などいろいろな川で干潟の調査をされている河田航路さんに寄贈していただきました。第1背鰭の後端に黒色斑がないことなどから、ウキゴリと区別することができます。ウキゴリと同じく、幼魚期を海で過ごす回遊を行います。汽水域から下流にかけて生息しますが、ウキゴリよりも分布域は下流側になります。



スミウキゴリ  
(河田航路さん撮影)

---

## シロジュウゴホシテントウ・・・2016年11月9日、和泉葛城山

30種目のテントウムシ

コウチュウ目 テントウムシ科

山頂の昆虫調査の時に、ヒカゲノイノコズチの茎に止まっている1匹を見つけました。山地性と言われています。その時には良い写真が撮れず、帰館してから撮り直しました。大阪府レッドリストの2014年の改訂で新たに準絶滅危惧にランクインしました。大阪府内でも生息地は限られているようです。



シロジュウゴホシテントウ

---

## クロホシマンジュウダイ・・・2016年12月7日

汽水ワンド

かわいいけど食べ方は獰猛？

スズキ目 クロホシマンジュウダイ科

近木川河口の汽水ワンド調査で採集されました。成長すると全長20cmになりますが、まだ2cm弱の幼魚です。アサリのむき身や市販の人工餌は食べなかったのですが、近木川河口で採集してきた石に生えたアオノリの仲間は気に入ったようです。引きちぎって食べる様子は、けっこう獰猛な印象を受けました。



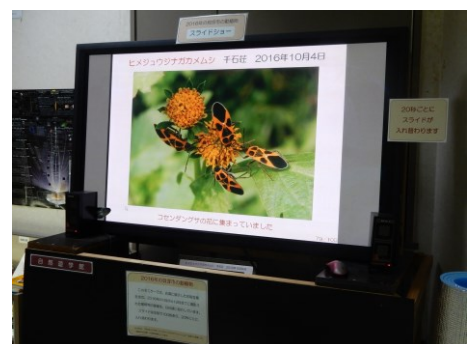
クロホシマンジュウダイ（幼魚）

---

## 2. 生きものスライドショー

A3で印刷したものも含めて100枚の動植物の写真を幅108cmの大型モニターで、パワーポイントを使用して20秒ごとに日付順に入れ替わるように提示しました。100枚の写真はいずれも2016年に貝塚市内で撮影されたものです。

BGMとして、「フリーBGM・music is VFR」からダウンロードした、田舎の大草原と等身大の日常の2曲を使用しました。以下に、スライドショーで使用した画像のリストを示しました。寄贈していただいた写真を使用したものは、備考欄に撮影者の氏名を示しました。



スライドショーを提示した大型モニター

特別展「2016年の自然遊学館の出来事」においてスライドショーで提示した画像一覧-1

日付	区分	種名など	場所	展示	備考
1月2日	鳥	コガモ	近木川河口	○	
1月7日	哺乳類	スナメリ	貝塚人工島	○	絶滅危惧Ⅱ類(大阪府RL)
1月16日	魚	ウスバハギ	二色の浜		川口博さん寄贈標本
1月26日	鳥	キンクロハジロ	千石荘		
2月5日	鳥	オナガガモ	近木川河口		
2月5日	鳥	シロチドリ	近木川河口	○	絶滅危惧Ⅱ類(大阪府RL)
2月11日	鳥	エナガ	水間		
2月18日	植物	ユキワリイチゲ	近木川上流	○	準絶滅危惧(大阪府RL)
2月28日	植物	フデリンドウ	和泉葛城山	○	覚野良子さん寄贈画像
2月28日	植物	アカミヤドリギ	和泉葛城山		覚野良子さん寄贈画像
3月1日	昆虫	ラクダムシの幼虫	二色の浜公園		
3月3日	鳥	アメリカヒドリのオス幼鳥	近木川河口		藤村雅志さん寄贈画像
3月5日	鳥	スズガモ	近木川河口		
3月8日	昆虫	イシガケチョウ	大川	○	
3月17日	昆虫	サツマヒメカマキリの幼虫	三ヶ山		
3月19日	昆虫	アオムシコマユバチ	二色の浜公園		
3月22日	植物	コスミレ	千石荘	○	
4月2日	植物	コガネネコノメソウ	和泉葛城山		覚野良子さん寄贈画像
4月11日	植物	ソメイヨシノ	汽水ワンド		
4月12日	哺乳類	アナグマ	千石荘		準絶滅危惧(大阪府RL)
4月16日	昆虫	クロスジギンヤンマ	トンボの池		
4月17日	爬虫類	ニホンマムシ	和泉葛城山		覚野良子さん寄贈画像
4月18日	両生類	イモリの幼生	自然遊学館・展示		準絶滅危惧(大阪府RL)
4月19日	植物	エイザンスミレ	和泉葛城山		
4月26日	植物	ホタルカズラ	馬場		北田誠さん開花情報
4月26日	昆虫	ヤスマツアメンボ	和泉葛城山	○	準絶滅危惧(大阪府RL)
4月26日	植物	ヤマルリソウ	和泉葛城山		
5月5日	植物	ギンラン	千石荘		準絶滅危惧(大阪府RL)
5月8日	植物	クワガタソウ	和泉葛城山	○	覚野良子さん寄贈画像
5月11日	爬虫類	アオダイショウの幼蛇	福田		
5月12日	植物	コバノタツナミソウ	梶谷		
5月12日	昆虫	フタスジサナエ	馬場		準絶滅危惧(大阪府RL)
5月17日	植物	キバナチゴユリ	東手川		絶滅危惧Ⅰ類(大阪府RL)
5月18日	植物	樹幹	千石荘		
5月22日	軟体動物	オチバガイ	近木川河口		絶滅(大阪府RL)
5月22日	甲殻類	マメコブシ	近木川河口	○	準絶滅危惧(大阪府RL)
5月22日	棘皮動物	イシワケイソギンチャク	近木川河口		
5月29日	鳥	ツバメ	近木		食野俊男さん情報
6月2日	虫えい	サクラハチヂミフシ	千石荘		
6月10日	クモ	コガネグモ	千石荘		準絶滅危惧(大阪府RL)
6月12日	植物	クモキリソウ	和泉葛城山		覚野良子さん寄贈画像
6月18日	植物	イナモリソウ	和泉葛城山	○	覚野良子さん寄贈画像
6月26日	甲殻類	スネナガイソガニ	二色の浜		
7月2日	昆虫	ナメクジハハチの一種の幼虫	千石荘		
7月6日	甲殻類	アジアカブトエビ	脇浜		
7月6日	哺乳類	コウベモグラ	和泉葛城山稜線		佐々木敏夫さん寄贈標本
7月14日	昆虫	ホソクビツユムシ	和泉葛城山		
7月19日	昆虫	シャチホコガの幼虫	和泉葛城山		
7月21日	変形菌	ムラサキホコリ的一种	千石荘	○	
7月29日	魚	タカハヤ	近木川上流		
7月31日	軟体動物	シロイバラウミウシ	二色の浜		

特別展「2016年の自然遊学館の出来事」においてスライドショーで提示した画像一覧-2

日付	区分	種名など	場所	展示	備考
8月2日	昆虫	キイトンボ	千石荘		準絶滅危惧（大阪府RL）
8月4日	昆虫	ミヤマアカネ	和泉葛城山		準絶滅危惧（大阪府RL）
8月5日	甲殻類	ジャンメガザミ	二色の浜	○	
8月5日	魚	アケボノチョウチョウウオ	二色の浜		
8月7日	植物	オオキツネノカミソリ	和泉葛城山		覚野良子さん寄贈画像
8月20日	魚	ゴクラクハゼ	自然遊学館・展示		
8月21日	植物	ウシタキソウ	和泉葛城山		覚野良子さん寄贈画像
8月22日	昆虫	キマダラカメムシ	汽水ワンド		
8月23日	植物	ブナ立ち枯れ木	和泉葛城山	○	
8月23日	昆虫	オオルリボシヤンマ	和泉葛城山		準絶滅危惧（大阪府RL）
8月25日	昆虫	ギンツバメ	馬場		
9月1日	植物	ミヤマナミキ	和泉葛城山		覚野良子さん寄贈画像 準絶滅危惧（大阪府RL）
9月3日	鳥	ハマシギ	近木川河口		
9月3日	魚	アカエイ	近木川河口		
9月3日	魚	コンゴウフグ	近木川河口		
9月5日	植物	コナギ	トンボの池	○	
9月5日	昆虫	モンクロシャチホコの幼虫	市民の森		
9月6日	キノコ	ハタケチャダイゴケ	千石荘		
9月13日	カタツムリ	ギュリキマイマイ	水間		
9月15日	鳥	コグンカンドリ	近木川河口		藤村雅志さん寄贈画像
9月15日	クモ	イシサワオニグモ	和泉葛城山		
9月22日	植物	ギンリョウソウモドキ	蕎原		
9月22日	キノコ	アシナガイグチ	蕎原		
9月24日	甲殻類	ミナミテナガエビ	近木川下流	○	
9月27日	キノコ	アカエノズキンタケ	和泉葛城山		
9月27日	キノコ	タマゴタケ	和泉葛城山		
10月2日	植物	アケボノシュスラン	和泉葛城山	○	覚野良子さん寄贈画像
10月4日	昆虫	ヒメジュウジナガカメムシ	千石荘		
10月4日	キノコ	サンコタケ	千石荘		
10月6日	昆虫	アサギマダラ	和泉葛城山		
10月6日	キノコ	ツネノチャダイゴケ	和泉葛城山		
10月8日	昆虫	マイコアカネ	トンボの池		準絶滅危惧（大阪府RL）
10月12日	鳥	ヤブサメ	自然遊学館前	○	
10月20日	カタツムリ	チャイロオトメマイマイ	和泉葛城山		
10月20日	爬虫類	ヒバカリ	蕎原	○	絶滅危惧Ⅱ類（大阪府RL）
10月20日	両生類	タゴガエル	蕎原		
10月20日	キノコ	ベニナギナタタケ	蕎原		
10月24日	哺乳類	イタチの一種	自然遊学館裏		
10月27日	キノコ	ヒラフスベ	水間公園	○	
10月31日	昆虫	クビキリギス	澤		常道武士さん寄贈標本
11月3日	昆虫	ショウリョウバッタモドキ	千石荘		
11月10日	昆虫	シロジュウゴホシテントウ	和泉葛城山	○	準絶滅危惧（大阪府RL）
11月18日	昆虫	クスベニヒラタカスミカメ	脇浜		
11月25日	甲殻類	オオヒライソガニ	貝塚人工島		
12月1日	昆虫	ウラギンシジミ	千石荘		
12月7日	鳥	チョウゲンボウ	二色の浜		
12月15日	鳥	イソヒヨドリ	馬場		
12月17日	昆虫	オオシワアリ	貝塚人工島		
12月30日	魚	クロホシマンジュウダイ	自然遊学館・展示	○	

### 3. スナメリ剥製

2016年1月7日、二色海浜緑地公園の海岸に打ち上げられたスナメリの死体が剥製（と骨標本）になり、2017年2月17日から24日まで貝塚市役所において一般公開され、その後、自然遊学館で展示しています。全長は約165cmあります。特別展期間中は、会場の多目的室中央に展示しました。



スナメリのはく製

### 4. 標本

丸山幸代さん寄贈の二色の浜貝類標本、西村恒一さん寄贈昆虫標本（寄贈標本箱82個のうちの1個）、貝塚市内で採集された昆虫標本、トンボの池で採集されたトンボの羽化殻などを展示しました。



ビーズすなめり  
(鈴子佐幸さん作製)

### 5. 寄贈作品

ビーズすなめり（鈴子佐幸さん作製）、二色の浜からの恵み（打ち上げ貝などを材料にした丸山幸代さんの作品）、ゼンタングル作品（青木泰彦さん作製）を展示しました。

### 6. 汽水ワンド調査報告

岸和田土木事務所からの委託で2012年度から5年間、近木川河口干潟再生地（汽水ワンド）および周辺において経過観察を行ってきました。その調査結果を展示しました。



ぬり絵コーナー

### 7. ぬり絵コーナー

自然遊学館のスタッフが貝塚市内で撮影した生きものの写真を素にして、「遊学館ぬり絵」を18種類作製し、会場の一角で楽しんでもらいました。また、どのような自然を望むのかをアンケートで答えてもらいました。

以上、特別展「2016年の自然遊学館の出来事」において展示した写真、スライドショー、標本、寄贈作品、調査結果などの紹介をしました。



遊学館ぬり絵（トノサマガエル）